

# 典子は今

松山善三監督作品 主演■辻典子



撮影●立木義浩

見てくたさい 私の青春を●あなたと同じように 素晴らしい青春を――



国際障害者年  
協賛作品  
C.O.S.8



製作●高橋松男  
柴田輝二  
題字●辻典子  
企画●開映一〇〇年  
日本委員会  
製作●キネマ東京  
製作●シバタフィルム  
協力●プロモーション  
配給●東宝株式会社

後援●総理府  
●厚生省

193043-202

《今秋》ロードショー

●有楽町元日劇前

ニュー東宝シネマ2

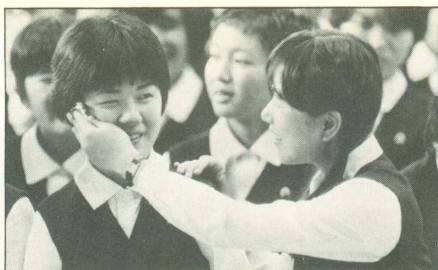
TEL (571) 1947



# 解説

昭和三十七年をピークに三百六人のサリドマイド児が日本で生まれた。辻典子もその一人である。しかし彼女は不運と障害を乗り越え、己れの能力を十分に伸ばして熊本市役所・一般事務職に合格した。昭和五十五年春、競争率二十六倍の難関を突破しての快挙である。

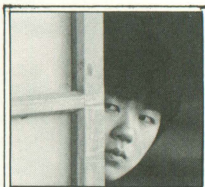
映画「典子は、今」はサリドマイド児・辻典子の「出生から青春へ」を、ドラマとドキュメントの手法を駆使して映画化するもので、意図するものは人間への「讃歌」であって、身障者への「哀歌」ではない。



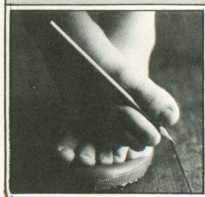
典子の「足」を「手」にかえた日常がそのままこの映画のドラマである。人々は彼女を見ることで、真の「勇気」、真の「努力」の何たるかを知るだろう。この映画の演出を手がけるのは「名もなく貧しく美しく」以来、身障者問題をテーマに数々の秀作を発表してきた松山善三。

出演は母親役に渡辺美佐子、そして長門裕之、河原崎長一郎、樫山文枝、三上寛らベテラン異色演技陣が脇を固めている。松山監督の夫人でもある高峰秀子が助監督として辻典子の演技指導にあたる一方、写真家、立木義浩がはじめて映画のスクリーンを担当する。

二十一世紀へ向けてのビジョンを提言する目的で国際シンポジウム、芸術祭の開催などを行ってきた二〇〇一年日本委員会が企画、「ガン回廊の朝」「生きて、母ちゃん」のキネマ東京が製作、シバタフィルムプロモーションが製作協力、東宝が配給する感動の人間讃歌である。



# 典子は、今



## 物語

昭和三十七年一月、典子は両親が退化したサリドマイド児として誕生した。

「私は生まれると同時に大きな不幸を持って来ました。私のような子供が生まれて両親を悲しませてしまったことです」

高校卒業も間近いある日、淡々と話しはじめた典子の言葉にクラス全員は息をのんで聴き入っていた。

「人間には手と足が二本ずつあるのだと私がはじめて気がついたのは五才の時でした」

両親のない典子に小学校入学の壁は厚かった。あの時、最後の望みを託した碩台小学校の先生が入学を許可してくれなかったら、典子の人生は別のものになっていたのかも知れない。

それ以来、典子も母も失われた両手をくやむことなく、残された足で何が出来るかに挑み続けた。箸の扱いも習字もそろばんも、運動会の玉入れさえも典子の足は手以上の働きをした。

典子は大学へ進んでデザイナーになる夢を抱いていた。しかし、ある日年老いた母の姿をまのあたりにして典子は決心した。

「今日からなんでも自分でやってみる。お母さんの手はもうかからない」



た。熊本市役所福祉課。足で書類をめくり、そろばんをはじき、ひっきりなしにかかる電話をさばく。サリドマイド児はじめての社会人が誕生した。

ある日、通勤バスの乱暴な運転に体を支えきれず、典子は倒れた。両手のない典子は立ち上がれない。母も先生も友人もいない中で典子は必死にもがき、立ちとうとした。

その夜典子は一人で旅に出ると母に告げた。世間は決してやさしくない。いずれ一人で生きてゆかなければならぬのだから、いま一人で旅をしてみよう。典子は交通を続けていた広島障害者、富永みちを訪ねようと決めていた。典子の旅は自分の障害を他人にすすんでさらすことに耐えなければ成立しない。通りすがりの人に自分の障害を説明し、助力を頼むことはじめて切符が買え、駅弁を食べることが出来る。

典子は広島にたどりついた。たった一人のはじめての世間へのチャレンジャーであった。そして典子は富永みちが自殺して世を去ったことを知った。みちこの兄健一は典子を釣りに誘って、妹は障害に負けたのだと語った。そして「お前は死ぬなよ。負けるなよ」と涙ぐんだ。典子の竿に激しい当りが来た。横転しながら足で竿を上げる。尺余のはまちが宙に舞い小舟の中を跳ねまわる。魚を抱えこんだ典子の胸に生命の躍動が伝わってきた。

## キャスト

松原典子	辻典子
「春江」	渡辺美佐子
少女時代の典子	若命真裕子
春江の夫	長門裕之
市立高校の校長	伊豆肇
楠教師	河原崎長一郎
松橋養護学校校長	下条正巳
碩台小学校校長	鈴木瑞穂
広瀬先生	榎山文枝
富永つね	鈴木光枝
「健一」	三上寛



## スタッフ

製作	高橋松男
脚本・監督	松山善三
撮影	石原興
照明	中島利男
録音	広瀬浩一
音楽	森岡賢一郎
スチール	東芝EM
題字	辻典子
	ヒスタサイズカラー作品